

## スマートメーターの送信ユニットを取り除く方法

<https://len2.web.fc2.com/unsmart.html>

このクイックレポートは、日本に住んでいて電気の「スマート」メーター(または他の種類の「スマート」メーター)を交換したい人のためのガイドとして提供されています(訳注: スマート[smart]には「賢い」という意味があります)。

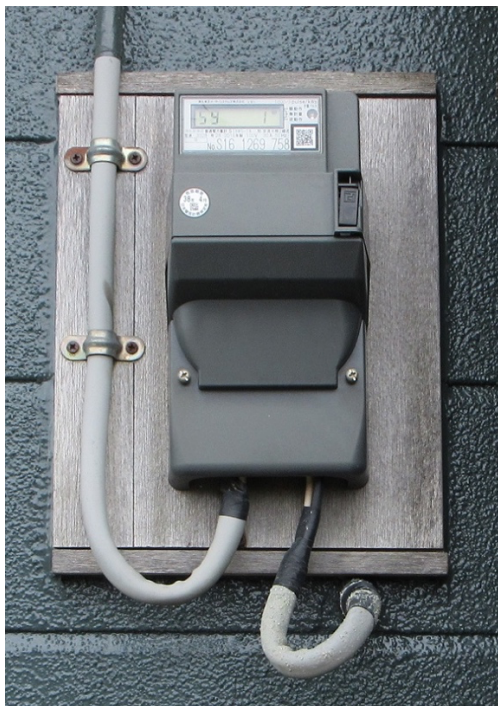
2023年12月初旬、私の家のチャイムが鳴り、「スマート」メーターを交換するという男と対面しました(私の家には、数年間、「スマート」メーターがありました。東電の下請け会社が何も言わず、私の承諾も得ずに交換したのです。正直なところ、私は当時、「スマート」メーターをあまり意識していませんでした)。私は彼にメーターの交換は許可しないといい、彼の会社の人と話せるように、私に電話するよう求めました。

約20分後、下請け会社の女性から電話があり、私が了承するなら、古いメーターと交換するユニットから送信装置(「通信部」)を取り外しても良い、と言われました。私がそれでいいと言うと、彼女は新しい「スマートでない」メーターを取り付ける日時を決めるために、もう一度電話すると言い、その時に監督者も詳細を説明しに来る、と言いました。数日後、その女性から日時の調整の電話がありました。(注: 通信部を取り外しても、「スマート」メーターが「スマートではない」メーターにはなりません。)あくまでも「スマート」メーターです。下記を参照してください。)

約束の時間の直前に、電磁場、電気・電磁ノイズ(dirty electricity)、電場を測定する数台のメーターを持っている友人が来て、屋内外の数か所を測定しました。

2人の男性(新しいメーターを取り付ける技術者と監督者)は時間通りに到着し、新しいメーターとその通信部と、それを取り外す方法を私に見せました。その後、私たちが見たり写真を撮ったりしている間に、技術者は古いメーターを取り外し、通信装置のない新しいメーターを取り付けました(写真撮影は問題ありませんでした。実際、彼らは時々作業を止めて、写真を撮るよう誘ってくれました)。

## 1. 古いスマートメーター



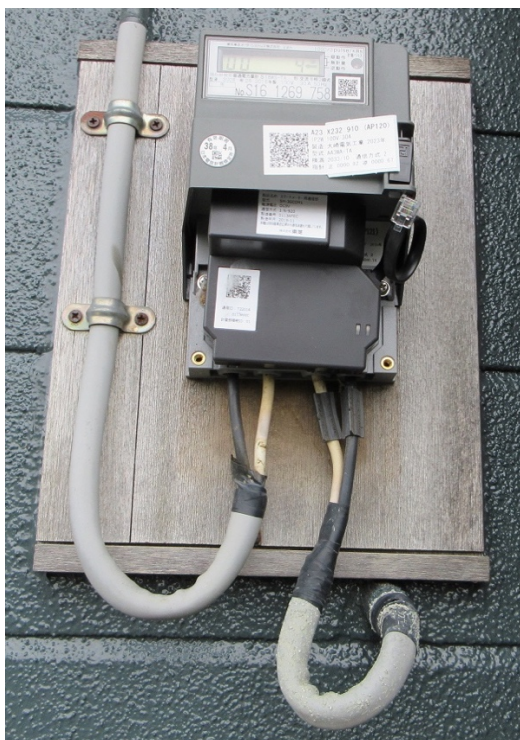
## 2. 通信装置がメーターにどのように接続されているかを示す、新しいスマートメーター



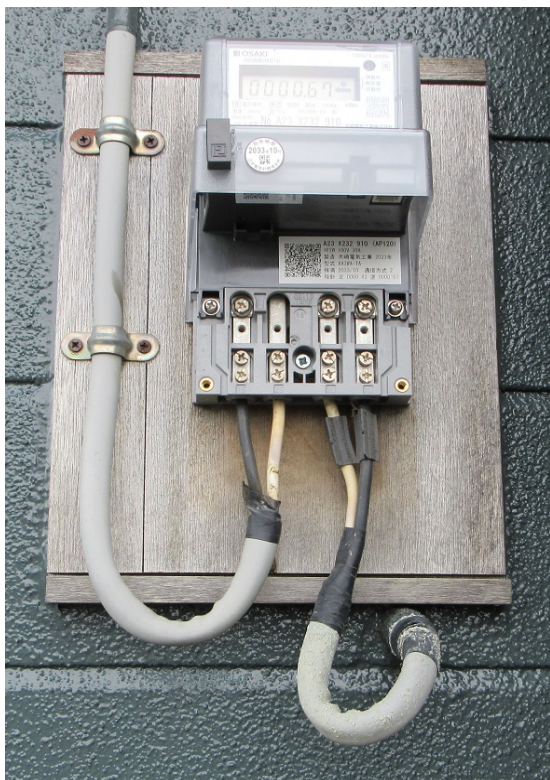
3. 通信装置が接続されていない新しいスマートメーター



4. カバーを外し、通信装置を外した古いスマートメーター



5. カバーがなく、通信装置なしで取り付けられた新しいメーター  
(カバーを取り付けて作業終了。)



これからどうやって検針するのか聞いたところ、月に 1 回検針に来ると言われました。追加料金の話がなかったので、請求されないと思います。

また、通信部のついた「スマート」メーターがどのくらいの頻度で測定値を送信しているのか尋ねたところ、30 分に一度と言われました。

二人の男性は、それで立ち去りました。友人は交換前と同じ場所で測定しました。電磁場、汚れた電気、電場に有意な変化はありませんでした。(元々あった) 古い「スマート」メーターが送信している間に測定できなかったのも、その時の電磁場の強さや通信時間はわかりませんでした(友人は、送信時間は 1 分くらいだと思っています。ネットで検索しても、これに関する情報は出てきませんでした)。30 分おきに、年中無休で送信することがなくなったのは嬉しいです。

送信デバイスを取り外す前に、古い「スマート」メーターが「期限切れ」になるまで待つ必要はほとんどありません。電力会社に電話して送信装置の取り外しを依頼できるはずです。  
(訳注：メーターなど検針機は 10 年ごとに交換し、正常に動くかどうかを確認することが

法律で決まっているので、10年ごとにメーターを交換しなくてはなりません。今回のケースでは、東電はなぜか10年の期限を待たずに、メーター交換を持ちかけました。

また、友人は下記の、知っておくべきことを言いました。

「通信しないスマートメーターは始めて聞きました。マイクロウェーブ通信部を外し、その代わりに送電線を通して通信するというのを聞いたことがあります。それが、通信部を外してもらった山梨県にある人（男性）が大変な問題となった理由です。彼は、電線を通しての通信の結果、電気ノイズがひどくて、電磁過敏症になってしまいました。果ての挙句に、彼は壁からスマートメーターを引っ張り外し、電気のない生活をせざるを得なかったです。」

「あなたの家では、（通信部のないスマートメーターを設置した前後に）マイクロサージ電磁ノイズの測定値が上がらなかったのも、メーターを交換するのが正規の手順で行われたと思います。スマートメーターの通信部を外したいと考えている他の方々への、良い情報になる可能性が高いです。しかし、深刻な電磁過敏症に悩んでいるの方々にとって、どのような結果になるかを注意深く見守らないといけないと思います。」

過敏症患者会「いのち環境ネットワーク（LEN）」では、会報でも度々、スマートメーターからアナログメーターに交換された事例を紹介してきました。中国電力がスマートメーターの送信ユニットを外したケース（会報78号）や、北海道電力にアナログメーターへの交換を依頼して数日後には交換された事例（会報76号）を紹介しました。

住民がスマートメーターから送信ユニットを撤去する対策案を拒否し、アナログメーターの使用を強く希望した場合、期限切れのアナログメーターを継続して使うことを東京電力が認めたケースもあります（会報75号）。

著：いのち環境ネットワーク（LEN）メンバーによる

情報、ご意見、ご質問は、いのち環境ネットワーク(LEN)翻訳チーム [ekoljii\[at\]yahoo.com](mailto:ekoljii[at]yahoo.com) までメールをお送りください。